日本共産党杉並区議会議員

こんにちは 酒井まさえです

２０２２年4月２１日　№１１７
連絡先　日本共産党杉並区議団控室 3312-2111
０９０-９３２５-５６７６　sakaimasae.0507@gmail.com

区民施策は23区最低水準

区民に冷たい区政から区民を大切にする杉並区政へ

福祉に冷たく、道路建設や再開発には税金投入

住民福祉の増進は、地方自治法にも明記されている自治体の責務です。

しかし、田中区政のもとで、区民生活に直結する施策は、左表のように23区でも最低水準です。

党区議団は、こうした実態を区議会で唯一明らかにし、区民のための施策に重点的に取り組むべきと求めてきました。

学校トイレの洋式化率（2021年度）	23区中22位
歳出総額に占める商工費の割合（2021年度）	23区中18位
人口あたりの集会所面積（2019年度）	23区中22位
人口あたりの体育館面積	23区中23位
高齢者の補聴器給付・貸与	17区が実施、または実施の予定 杉並区は意思なし

23区でも異常な区民施策の低水準ぶりは、杉並区にお金がないからではありません。都市計画道路の建設や、阿佐ヶ谷駅北東地区再開発等は、区民の反対の声を無視して強引に進め、そのための財政投入はためらいもなく進めています。

区長の横暴に反対するだけでなく、区民負担の軽減や福祉の充実のために力を尽くす日本共産党区議団。議席増をめざし全力をあげます。

区長選挙・区議補欠選挙で区政を変えよう！

こうした区政を変える絶好のチャンスが6月12日告示、19日投票で行われる区長選挙です。区民のくらしや福祉を大切にする区政に変えるために、日本共産党も住民のみなさんと議論を進めています。

区長選挙と同時に行われる区議会議員補欠選挙では、日本共産党は、新人の増田さちえさんを擁立する予定です。

区議会では、自民党・公明党はもとより、国政では多くの課題で共闘している立憲民主党や、生活者ネットの議員までもが、区長に追随し、悪政を推進しています。

４月１９日　増田さちえさんと区議団

学習会に参加

あなたの「聞こえ」は大丈夫？　いつまでも聞こえる耳を

高齢難聴者の補聴器助成　実現に向けて

4月9日、中野・杉並健康友の会主催の研修会に参加しました。

「いつまでも聞こえる耳を」と題し、慶応義塾大学名誉教授・オトクリニック東京院長の小川先生が、高齢者の難聴について講演されました。

補聴器の購入費助成事業を実施している自治体は、23区では15区になりました。今年度予定している区は2区ありますが、中野区・杉並区は実施していません。

小川先生は、中野区・杉並区の議会で、補聴器購入助成制度を求める陳情等が不採択となった理由として、次の3点をあげましたが、同時にそれに対する反論も示しました。

研修会の会場にて

①難聴と認知症の関係を政府は認めていない

厚労省のオレンジプラン、WHOガイドラインでは明記している。（アメリカで調査中、今年度に結果が出る予定）

②高齢者は補聴器の調整もできず、途中であきらめてしまう

トレーニングすれば使える。その支援を自治体が担うことが重要。今年実施する港区の例を出していました。

③費用対効果はあるのか

認知症による国内コストは年間12兆円超。補聴器をつけることで認知症対策になり、コストを減らせる。

今後、超高齢化社会となり、人生100年の時代となります。補聴器を装着することは、認知症予防だけではなく、日常生活を有意義に過ごすためにも大事です。

これからも、杉並での補聴器購入助成制度の実現のために力を尽くします。

健康の話　肩こりについて

今回は、肩こりについて取り上げてみました。（リクエストもありました）

肩こりは、首すじ、首のつけ根から、肩または背中にかけて張り、こり、痛みを感じ、頭痛や吐き気を伴うこともあります。

肩こりに関係する筋肉はいろいろありますが、首の後ろから肩、背中にかけて張っている僧帽筋という幅広の筋肉がその中心になります。

原因は、首や背中が緊張するような姿勢での作業、姿勢の良くない人（猫背、前かがみ）、運動不足、精神的なストレス、なで肩、連続して同じ姿勢をとること、ショルダーバックをさげる、冷房などがあります。

肩こりは予防が大事です。

① 同じ姿勢を長く続けない。
② 蒸しタオルなどで肩を温めて筋肉の血行を良くして疲労をとる
③ 適度な運動や体操をする
④ 入浴し体を温め、リラックスする

症状が強かったり、長く続くようなら医療機関での受診をおすすめします。頸椎の病気や高血圧、眼疾患、耳鼻科疾患、頭蓋内の病気のこともあります。

お困りのことがありましたら酒井にご相談ください。